

リモコン自己点検機能付

非常用照明器具 (兼用器具)
階段通路誘導灯

[電池内蔵型]



(一般屋内用ダウンライト)

品番	NDG24600W	NDG24600S	NDG24605W	NDG24605S
	NDG24601W	NDG24601S	NDG24606W	NDG24606S
	NDG24602W	NDG24602S	NDG24607W	NDG24607S
	NDG24603W	NDG24603S	NDG24608W	NDG24608S

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事に依頼してください。

施工説明 工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

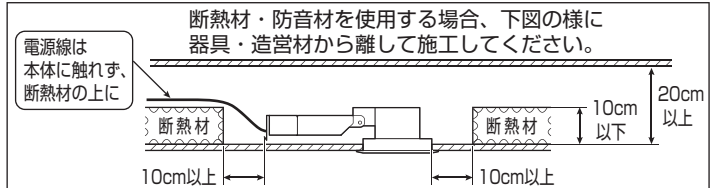
安全に関するご注意

⚠ 危険

●断熱材、防音材をかぶせた状態で使用しない。

火災の原因となります。

・住宅の断熱施工天井には使用できません。



⚠ 警告

●施工は、施工説明にしたがい確実に行う。

施工に不備があると非常点灯せず、正しい避難誘導ができないほか、火災・感電・落下によるけがの原因となります。

●器具の改造および構成部品(LED、コネクタなど)の交換はしない。火災・感電・落下の原因となります。

●器具の取付部以外の本体外郭が、天井内の造営物やダクト、電気配線等の設備に触れないように施工する。火災の原因となります。

●水平天井埋込専用です。壁取付や天井直付及び傾斜天井には取付けない。火災・落下の原因となります。

●必ず適合するLED電源ユニット(別売:適合品番はLED電源ユニット仕様欄参照)を使用する。

火災・破損の原因となります。

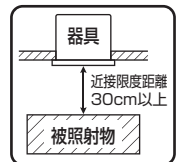
●必ず表示された定格電圧±6%の電源電圧で使用する。火災・感電の原因となります。

●器具と被照射物は30cm以上(近接限度距離)離す。近接限度距離内に被照射物が近づくおそれのある場所(ドア開閉範囲の上、家具の上、クローゼット・押入れの中等)では使用しない。

過熱による火災の原因となります。

●必ずリード線をLED電源ユニットに接続後、通電する。リード線を接続しないで電源を通電すると感電の原因となります。

●蓄電池を短絡、分解等しない。火災・感電・やけど・破裂の原因となります。



⚠ 注意

●一般屋内用器具です。直射日光の当たる場所、水気が多い場所、湿気が多い場所、振動のある場所、軒下、屋側通路等の雨の吹込みを受ける場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。火災・感電・落下・サビの原因となります。

●周囲温度は、5~35℃で使用してください。指定外の周囲温度で使用すると、蓄電池の劣化や火災及び非常点灯しない原因となります。

●器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用してください。けがのおそれがあります。

●この器具の電源は専用回路にしてください。

●階段通路誘導灯として使用される場合、常時、連続点灯してください。

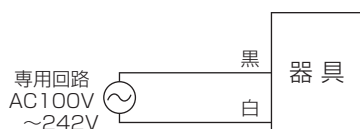
常時、消灯して使用される場合は、事前に所轄消防署の了解を得てください。

消灯される場合は、自動火災報知設備との連動が必要なため、誘導灯用信号装置等を用いて消灯してください。

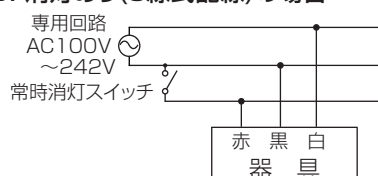
●48時間充電後→非常点灯の確認をしてください。充電しないと非常点灯しません。

配線種類

A. 消灯なし(2線式配線)の場合



B. 消灯あり(3線式配線)の場合



施工上のご注意

- ・取付面がクロス貼りの場合、接着剤が十分に乾燥してから器具を取り付けてください。サビや変色の原因となります。
- ・照射距離が近い時や照射面によって、光ムラが気になる場合があります。ご了承ください。
- ・通電した状態でコネクタの抜き差しをしないでください。故障の原因となります。
(通電した状態でコネクタを接続すると、二次側電流をストップする安全機能が働き、差し直しても点灯しません。一旦電源を切り再投入してください。)
- ・突入電流値は、定格欄に記載のとおりです。接続するスイッチの容量を確認の上、配線してください。

各部のなまえと取付方法

警告

- 施工は、施工説明にしたがい、確実に行う。
施工に不備があると、火災・感電・落下の原因となります。
- リード線の保護キャップを取り外した状態で通電しない。
感電の原因となります。
- リード線をLED電源ユニットの端子台に接続したあとに通電する。感電の原因となります。

- ・器具の取り付け取り外しは手袋など保護具を使用する。けがのおそれがあります。

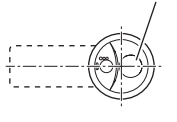
おすすめの取付方向

- ・一般照明器具と並べて使用の場合



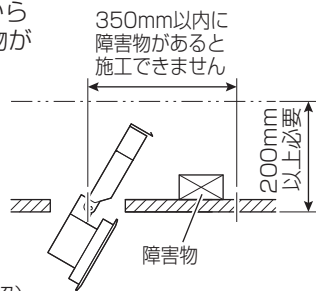
- ・壁の近くに取付ける場合

常用LED光源側を壁方向に



1 取付前の確認

- ・器具質量 (1.7kg : LED電源ユニット(別売)を含む) に十分耐えるよう、取付部の強度を確保する。不備があると器具ズレの原因となります。
- ・天井裏には埋込穴の中心から半径350mmの間に障害物がないことを確認する。不備があると本体取付不具合の原因となります。
- ・LED電源ユニット(別売)が適合品番であることを確認する。(裏表紙「定格」欄 LED電源ユニット品番 参照)

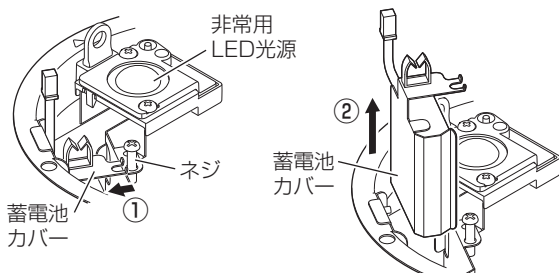


2 天井にφ150⁺⁴の埋込穴をあける

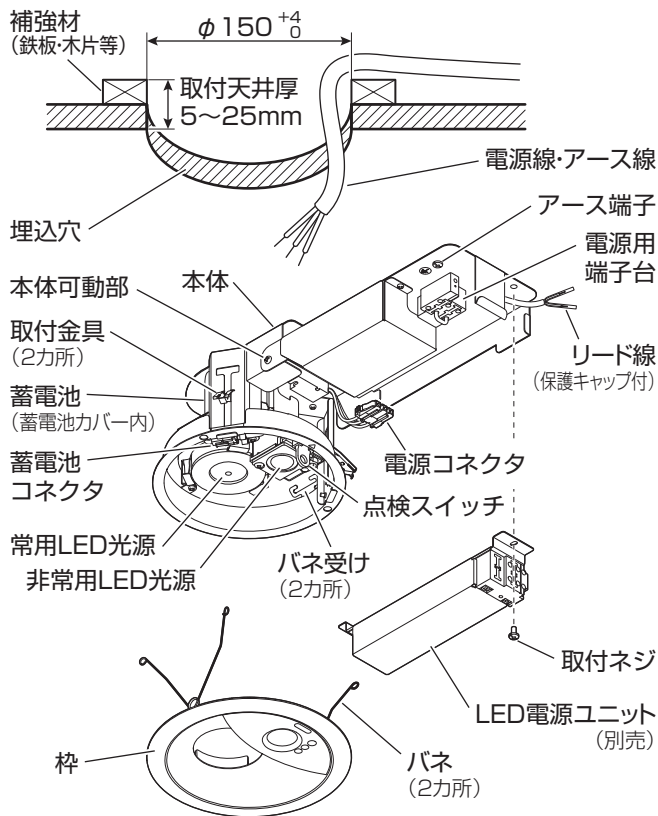
- ※精度よく穴をあけるために、ダウンライトカッターの使用をおすすめします。

3 蓄電池カバーを取り外す

- ①ネジを緩めて蓄電池カバーをネジから外す。
- ②器具から蓄電池カバーを引き出す。



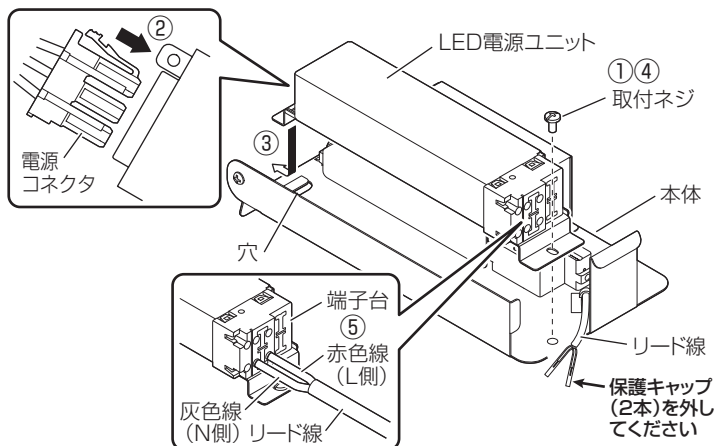
- ・ロックウール等、柔らかい天井に取付ける場合は天井上面と取付金具との間に補強材を入れてください。(取付金具が天井にくい込み、枠と天井の間にスキマができることがあります。)



4 LED電源ユニット(別売)を本体に取り付ける

- ※通電前に行ってください。通電した状態でコネクタを抜き差しすると故障の原因となります。

- ①本体から取付ネジを外す。
- ②LED電源ユニットに、電源コネクタを接続する。
- ③LED電源ユニット(電源コネクタ接続側)の先端を本体の穴に差し込む。
- ④取付ネジを締め付けて、LED電源ユニットを本体に固定する。
- ⑤LED電源ユニットの端子台に、本体からのリード線を差し込む。
・リード線の先端の保護キャップを外してください。

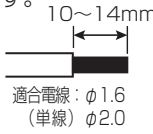


各部のなまえと取付方法 (つづき)

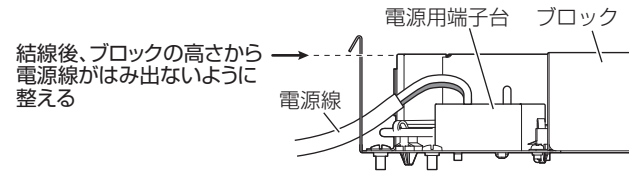
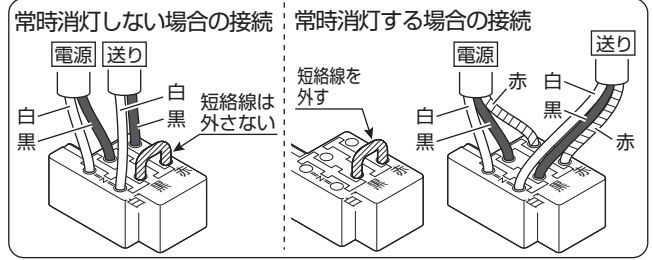
5 電源線・アース線を接続する

- 電源線は電源用端子台、アース線はアース端子に確実に接続する。
- この器具は、電源用端子台での送り配線が可能です。(端子台の送り容量は20Aです。)

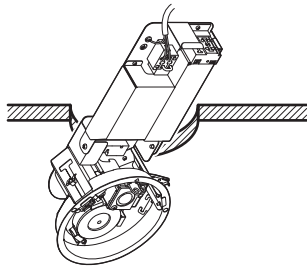
接続が不完全な場合や接続を間違った場合や容量オーバーした場合、火災・感電の原因となります。



- D種(第3種)接地工事が必要です。接地が不完全な場合、火災・感電の原因となります。
- 常時消灯する場合は、短絡線を外してください。
- 階段通路誘導灯として使用し、常時消灯する場合は、所轄消防署の承認が必要です。



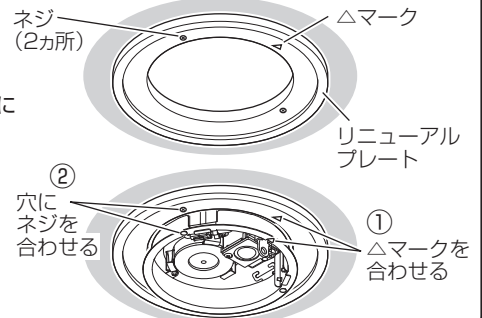
6 埋込穴に本体を挿入する



リニューアルプレートに取り付ける場合

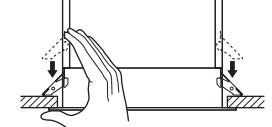
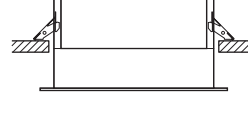
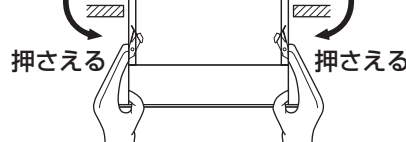
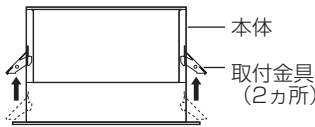
適合リニューアルプレート
NNN80005K
NNN80006K

- リニューアルプレートの△マークに器具の△マークを合わせる。
- 器具の穴位置(2カ所)にリニューアルプレートのネジ(2カ所)が合うようにして器具を取り付ける。



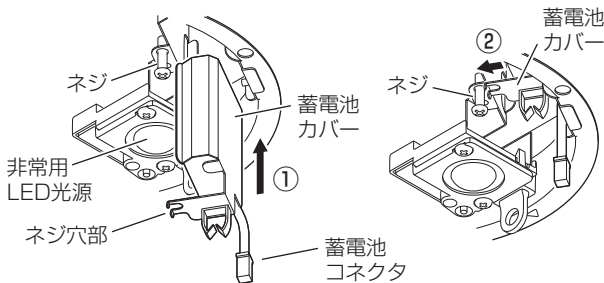
7 埋込穴に本体を取り付ける

- 取付金具が上の位置であることを確認する。
下がっている場合は押し上げてください。
- 取付金具を押さえながら本体を埋込穴に挿入する。
- 仮止め状態にする。
- 取付金具を天井材まで引き下げ、本体を固定する。

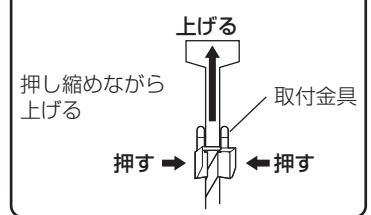


8 器具に蓄電池カバーを挿入する

- 蓄電池カバーを器具に差し込む。
- 蓄電池カバーのネジ穴部をネジに差し込み、ネジを締め付けて固定する。

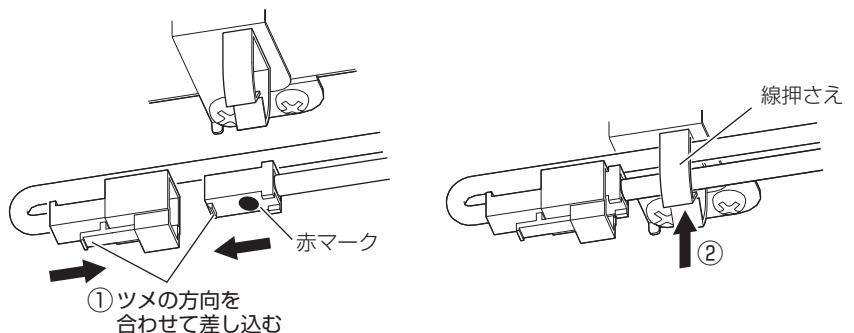


外す方法(器具の方向調整の場合)



9 蓄電池コネクタを接続する

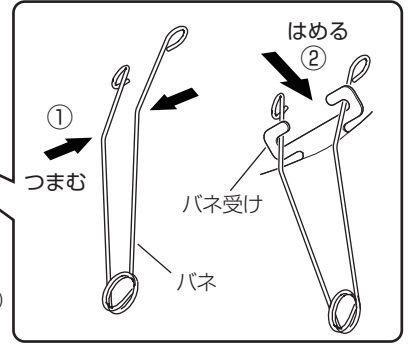
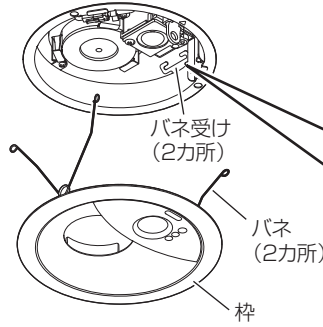
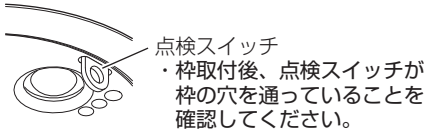
- 蓄電池コネクタの方向を合わせ確実に奥まで差し込む。
方向を間違えると器具が故障します。接続が不完全な場合、非常点灯不良の原因となります。
- 線押さえに蓄電池コネクタのリード線をはめ込む。



各部のなまえと取付方法 (つづき)

10 枠を取り付ける

- ・ 枠のバネを、本体のバネ受けに引掛ける。(2カ所)
- ・ 枠を本体に押し上げる。
引掛かり不備があると枠落下の原因となります。



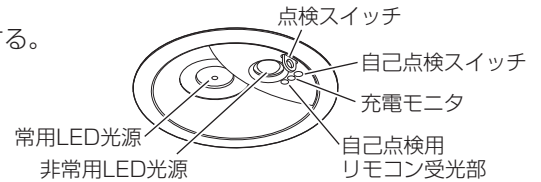
11 点灯確認

- ・ 電源通電状態で常用LED光源および充電モニタが点灯するか確認する。
- ・ 常時点灯状態で点検スイッチを引き、非常用LED光源が点灯するか確認する。
(充電モニタは消灯します。)

蓄電池は設置後通電し充電しないと非常点灯しません。

正常に動作しない場合は

故障かな?と思ったときは (7ページ) の項をご確認ください。



取扱説明

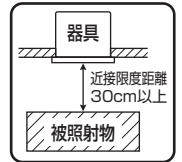
お客様へ、この説明書は必ず保管ください。

- ・ ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

警告

- 器具の改造および構成部品(LED、コネクタなど)の交換はしない。
火災・感電・落下の原因となります。
- 器具と被照射物は30cm以上(近接限度距離)離す。
近接限度距離内に被照射物が近づくおそれのある場所(ドア開閉範囲の上、家具の上、クローゼット・押入れの中等)では使用しない。
過熱による火災の原因となります。
- 蓄電池を加熱したり、火や水の中へ入れない。破裂する危険があります。
- 蓄電池は分解しない。やけど・感電の原因となります。電池内の液は、皮膚や衣類をいためます。
- 蓄電池をショートさせない。火災・破裂・やけど・感電の原因となります。
- 交換部品(LED電源ユニット、蓄電池)は指定のものを使用する。
指定外のものを使用すると、火災や非常時に正常点灯しない原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
そのままで使用すると、感電・火災の原因となります。



注意

- お手入れの際は、必ず電源を切ってください。
感電の原因となります。
- LEDを直視しないでください。目の痛みの原因となることがあります。
- アルカリ系洗剤は使用しないでください。強度低下による破損の原因となります。
- 照明器具には、寿命があります(※1)
法令に基づいて定期的に点検を実施してください。
点検せずに長時間使い続けるとまれに火災・感電・落下などにいたる場合があります。

※1 照明器具は、使用条件、使用環境で異なりますが、8~10年が取り替え時期の目安です。但し、蓄電池は、4~6年です。
非常用照明器具の場合、使用条件は、周囲温度30℃、1日10時間点灯です。





■ LED照明器具の光源寿命(※2)は40,000時間です。(照明器具の寿命とは異なります。)

※2 光源の寿命は、点灯しなくなるまでの総点灯時間または、全光束が点灯初期の85%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い時間を推定したものです。点灯できるからといって継続して使用が可能というわけではありません。
周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。

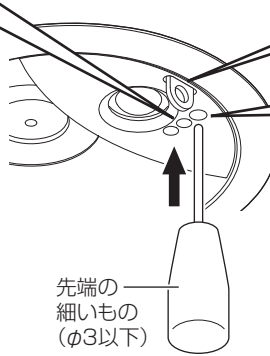
モニタと自己点検スイッチについて

充電モニタ（緑）

蓄電池が充電されているか確認できます。また自己点検『可』のお知らせをします。

	緑色点灯	正常です。
	点灯しない	<ul style="list-style-type: none"> 蓄電池が充電されていません。 非常点灯になっていないか、または、蓄電池が外れていないかを確認してください。 リモコンの「点検」スイッチまたは「確認」スイッチを押した場合、点検『不可』をお知らせします。
	緑色点滅	蓄電池の交換時期の目安です。蓄電池の容量低下や異常を緑色点滅でお知らせします。
	約1秒間緑色点滅（4回）	リモコンの「確認」スイッチを押した場合点検『可』をお知らせします。

注) 充電モニタの点灯確認時は、常時LED光源の光を直視しないでください。(常時消灯スイッチにより常時LED光源を消灯するか、常時LED光源の前で手をかざす等、対策してください。)



点検スイッチ

自己点検スイッチ

- 蓄電池の容量確認検査が行えます。(判定に30分かかります。)
- 先の細い(φ3以下)物で2秒以上押しと検査を開始します。(充電モニタ(緑)が消灯します。検査終了後は自動的に復帰します。)
- 自己点検スイッチの動作には、48時間以上の充電が必要となります。(48時間以内に、3秒以上の停電・非常点灯があった場合は点検動作しません。)

自己点検用リモコンについて

適合リモコン品番：FSK90910K（別売）

スイッチ各部の名称と働き

「中断」スイッチ

点検動作を中断し、通常状態に復帰させるときに使用します。

①「確認」スイッチ

非常灯器具が48時間の充電が完了しているかを確認するときに使用します。



チャンネル

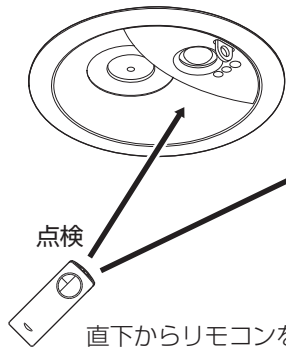
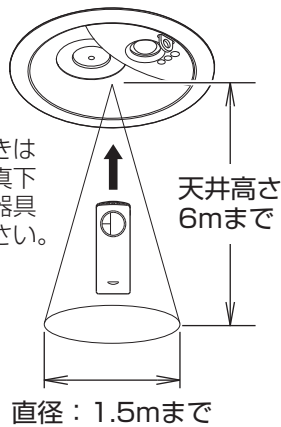
使用時、チャンネルは「2」にセットして下さい。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)

②「点検」スイッチ

定格時間の非常点灯確認を開始します。(器具本体の自己点検スイッチを押したときも同様です。)

リモコン操作エリアについて

リモコンを操作するときは点検する非常灯器具の真下からリモコンを非常灯器具に向けて送信してください。



直下からリモコンを操作しない場合、隣接する器具も受信してしまうことがあります。その際は隣接する器具の直下から、リモコンの「中断」スイッチを押して点検を中断してください。

注) 中断した場合は、再度48時間充電が必要です。

注) 充電モニタの点灯確認時は、常時LED光源の光を直視しないでください。(常時消灯スイッチにより常時LED光源を消灯するか、常時LED光源の前で手をかざす等、対策してください。)

リモコンによる点検方法

- チャンネルを「2」にセットしてください。(チャンネル「1」は誘導灯用です。)
- 充電モニタ(緑)が点灯していることを確認してください。

1 リモコンの「確認」スイッチを押してください。

【器具本体の充電モニタを確認してください】

- 充電モニタ(緑)が約1秒間点滅(4回) ⇒ 点検準備が来ています。②に進んでください。
- 充電モニタ(緑)が約1秒間消灯 ⇒ 点検準備が来ていません。48時間以上充電してください。

2 リモコンの「点検」スイッチを押してください。

【器具本体の充電モニタを確認してください】

- 充電モニタ(緑)が消灯(非常点灯に切り換わります) ⇒ ③に進んでください。

3 蓄電池の容量確認が行えます。(判定に30分かかります。)

【器具本体の充電モニタを確認してください】

- 充電モニタ(緑)が点灯 ⇒ 正常です。
- 充電モニタ(緑)が点滅 ⇒ 蓄電池の交換時期です。

- 途中で点検を中断する場合、リモコンの「中断」スイッチを押してください。

【器具本体の充電モニタを確認してください】

- 充電モニタ(緑)が点灯(通常状態に戻ります。)

リモコンスイッチと器具状態の対応表

	器具の状態		
	充電中 (充電時間48時間未満)	充電完了状態 (充電時間48時間以上)	点検中
「点検」スイッチ	充電モニタ(緑)約0.5秒間消灯(光源が点灯)(注)	点検開始(充電モニタ(緑)点灯⇒消灯)	— (充電モニタ(緑)消灯したまま)
「中断」スイッチ	— (充電モニタ(緑)点灯したまま)	— (充電モニタ(緑)点灯したまま)	点検中断 (充電モニタ(緑)消灯⇒点灯)
「確認」スイッチ	充電モニタ(緑)約1秒間消灯(注)	充電モニタ(緑)約1秒間点滅(4回)(注)	— (充電モニタ(緑)消灯したまま)

— の場合は充電モニタの状態に変化はありません。

(注) リモコンスイッチを押し続けると上記の状態を繰り返します。(例：「確認」スイッチを押し続けると、充電モニタ(緑)が点滅し続けます。)

使用上のご注意

- ・LED素子にバラツキがあるため、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。予めご了承ください。
- ・電源を通電しないまま蓄電池コネクタをつないで放置しないでください。非常時に点灯しません。また、蓄電池の寿命が短くなります。
- ・長時間使用しない場合は、蓄電池を外して保管してください。
- ・点検時以外は点検スイッチを操作しないでください。
- ・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
- ・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。

お手入れ・部品交換

- ・器具の清掃について……水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
- ・部品の交換について……下記の指定された部品を使用してください。

【交換部品】

蓄電池	FK739 (3.6V 1450mAh)
-----	----------------------



警告

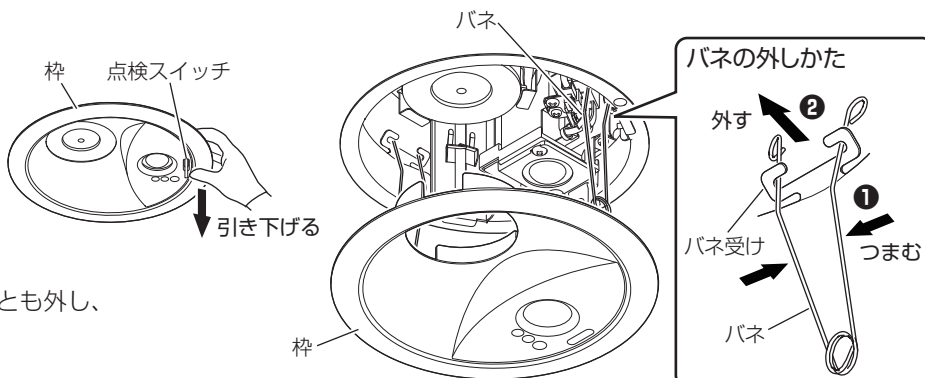
- 感電のおそれあり
お手入れ時は必ず電源を切ってください。
(2線式配線の場合、非常点灯します。)
- やけどのおそれあり
点灯中や消灯直後はランプユニットやその周辺をさわらないこと。

蓄電池交換方法

1 枠を仮吊りする

- ・枠の点検スイッチ付近に指を掛け、天井面から枠を引き下げる。
- バネをバネ受けから外し(1カ所)、枠を仮吊りする。

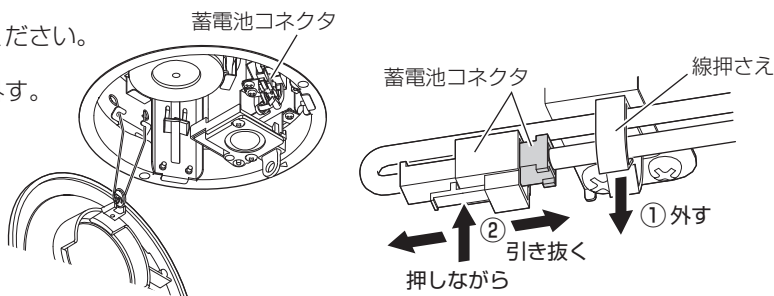
注) 作業しにくい場合はバネを2カ所とも外し、枠を完全に取り外してください。



2 蓄電池コネクタを抜く

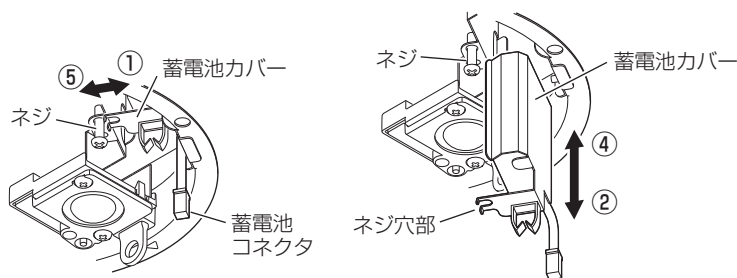
注) リード線を引っ張らないでください。

- ①線押さえから蓄電池コネクタのリード線を外す。
- ②コネクタを引き抜く。



3 蓄電池を交換する

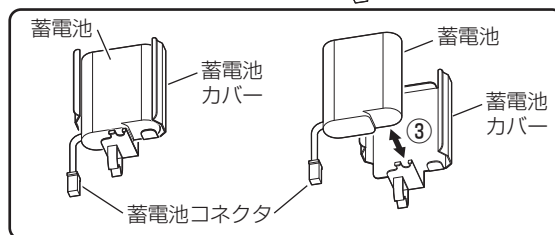
- ①ネジを緩めて蓄電池カバーをネジから外す。
- ②器具から蓄電池カバーを引き出す。
- ③蓄電池カバーから古い蓄電池を取り外し、右図の向きで新しい蓄電池を取り付ける。
- ④蓄電池カバーを器具に差し込む。
- ⑤蓄電池カバーのネジ穴部をネジに差し込み、ネジを締め付けて固定する。



4 蓄電池コネクタの接続・枠の取付・点灯確認

・3~4ページ

各部のなまえと取付方法 手順9~11 参照。



保証について

- ・保証について…… この商品の保証期間は1年間です。
電池などの消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
- ・保証書について…… 保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
- ・補修用性能部品の保有期間…… 弊社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、6年間保有しています。
補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

◆定期点検 ・3ヶ月に1回は、破損、変形などの外観の点検をお薦めします。
 ・6ヶ月に1回は、外観点検と機能点検を併せて行ってください。
 （点検については、誘導灯は消防法令、非常用照明器具は建築基準法令に定められていますので必ず実施ください。）

○設置年月日 年 月 日 ○取付場所 ○器具No.

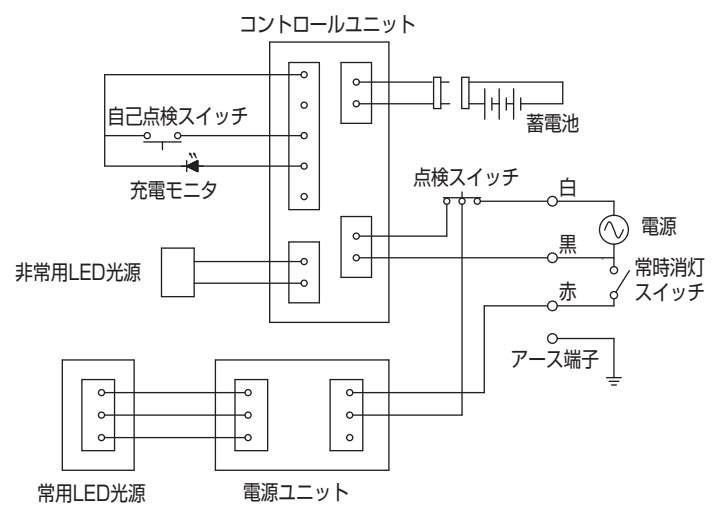
点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者	点検年月日	点検状態		点検者
	外観	機能			外観	機能			外観	機能	

故障かな?と思ったときは

表に従ってお調べいただき、なお異常がある場合は、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

現象	考えられる原因	処置
常用LED光源が点灯しない	常時消灯スイッチがOFFになっている	常時消灯スイッチをONする
非常点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する
短時間しか点灯しない (30分未満)	蓄電池の充電不足 (保管時の自然放電や、施工時の放電など)	48時間以上充電する
	蓄電池の寿命	蓄電池を交換する
充電モニタが点滅している	蓄電池の寿命	蓄電池を交換する
充電モニタが点灯しない	蓄電池コネクタ外れ	コネクタを接続する
自己点検スイッチが動作しない	2秒以上押していない	2秒以上押す
	48時間以上充電していない	48時間以上充電する
	48時間以内に3秒以上の非常点灯、停電があった	
	48時間以内に蓄電池コネクタを外した	
リモコンの点検スイッチが動作しない	48時間以上充電していない	48時間以上充電する
	48時間以内に3秒以上の非常点灯、停電があった	
	48時間以内に蓄電池コネクタを外した	

接続図



仕様

■仕様

識別記号 A0・A2・A4・A6・A8 兼用			
60形・100形・150形・200形・250形 兼用タイプ (φ150)			
器具品番		光色	配光
枠：ホワイト	枠：シルバーメタリック		
NDG24600W	NDG24600S	5000K	広角
NDG24601W	NDG24601S	4000K	
NDG24602W	NDG24602S	3500K	
NDG24603W	NDG24603S	3000K	
NDG24605W	NDG24605S	5000K	拡散
NDG24606W	NDG24606S	4000K	
NDG24607W	NDG24607S	3500K	
NDG24608W	NDG24608S	3000K	

■定格 (LED電源ユニットと組合せた場合)

LED電源ユニット品番	組み合わせ本体	識別記号	定格電圧	周波数	消費電力	入力電流	突入電流
NNK06010NLE9	60形 100形 150形 200形 250形 兼用 非常用器具	A0	AC100V	50/60Hz	5.6W	0.062A	12A
			AC200V				
			AC242V				
NNK10001NLE9		A2	AC100V		8.6W	0.091A	12A
			AC200V		8.9W	0.061A	
			AC242V			0.057A	
NNK16001NLE9		A4	AC100V		13.4W	0.135A	12A
			AC200V		13.7W	0.079A	
			AC242V			0.072A	
NNK20010NLE9		A6	AC100V		16.5W	0.165A	12A
			AC200V		16.8W	0.093A	
			AC242V			0.083A	
NNK25010NLE9	A8	AC100V	20.3W	0.206A	12A		
		AC200V	20.6W	0.110A			
		AC242V		0.097A			



Ni-MH

この器具は、“ニッケル水素電池”を使用しております。ご使用済みの“ニッケル水素電池”は貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないで電池パックのまま充電式電池リサイクル協力店へお持ちしていただくか、または“一般社団法人JBRC”に依頼してリサイクルしてください。